

## 正宗敦夫講義ノート(近世和歌史および古今和歌集注釈)



ペン書き。綴り。ノートルダム清心女子大学での講義原稿。正宗敦夫は、昭和27年より本学で教鞭を執るが、『金葉和歌集講義』（自治日報社 1968）に結実した「金葉集講読」以外に、「古今集演習」「近世和歌史」を講じている（『ノートルダム清心女子大学二十年史』（ノートルダム清心女子大学 1969）より）。

本ノートは、その講義ノートである。正宗敦夫は

一回の講義準備に六日間を費やしたと言われるが、それが領ける質・量である。近世和歌史は講義原稿そのもので、本ノートを活字化すれば、すぐに研究書となるレベルであり、古今和歌集のノートは、校異を細かく記した上で、注釈しており、これも研究書として刊行された『金葉和歌集講義』同様の充実ぶりである。

（文学部日本語日本文学科 准教授 新美哲彦）